

北海道駒ヶ岳

1 概況

火山活動は静穏な状態が続きました。

昭和4年火口等では熱活動に大きな変化は見られず弱い噴気活動が続いています。

地殻変動では山体膨張の傾向が引き続き認められます。

2 噴煙活動の状況

遠望カメラによる観測では、昭和4年火口及び96年南火口列の噴煙が時折観測されました。噴煙の勢いは非常に弱く、高さは概ね50m以下です。

3 地震活動の状況

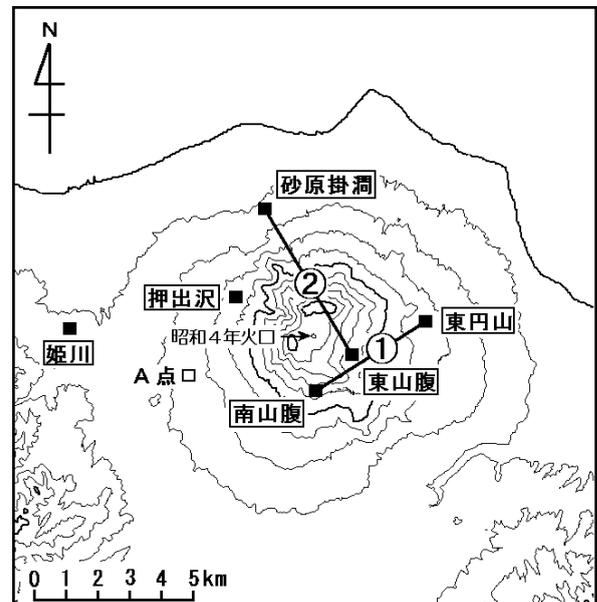
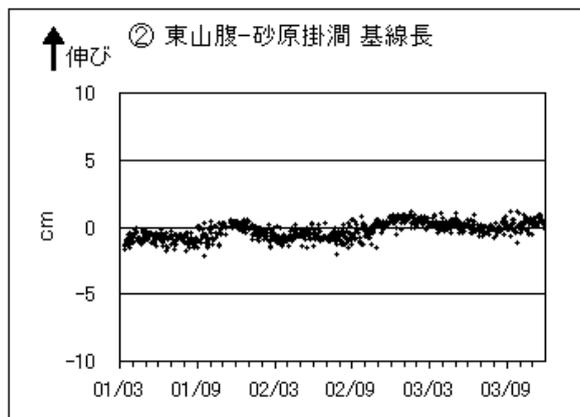
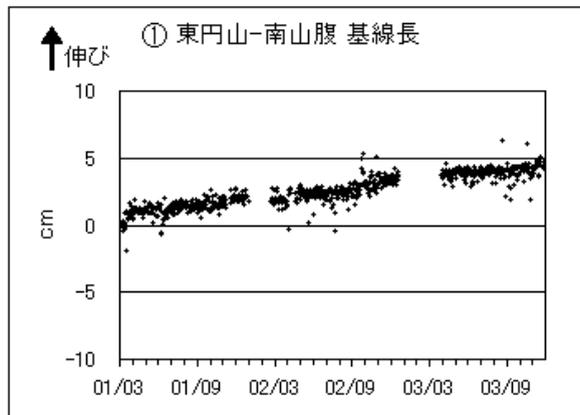
地震回数は引き続き少ない状態で推移しました。震源は山頂火口原の浅部(海拔下1~2km)で、これは通常の活動範囲内の活動です。火山性微動は2001年1月以降観測されていません。

月別地震・微動回数(A点)

2002~2003年	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
地震回数	1	0	2	1	0	2	0	1	1	1	2	4
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4 地殻変動の状況

G P S観測では、山体膨張の傾向が引き続き認められます。



北海道駒ヶ岳基線長変化(2001年3月23日~2003年11月30日)

5 調査観測の結果

10月27～31日及び11月5～6日に調査観測を実施しました。昭和4年火口およびその他の火口の熱活動には全般的に大きな変化は見られません。

【昭和4年火口】

火口内の96年主火口および南側火口壁で弱い噴気活動が続いています。北側火口縁から赤外放射温度計*で測定した火口温度は約45(前回9月:約40、測定距離130m)赤外熱映像装置*による観測でも熱異常域の拡大や新たな高温部は認められず前回と比べて大きな変化は見られません。

【96年南火口列】

火口列の所々で弱い噴気活動が続いています。火口列南端のF13噴気孔では弱い硫化水素臭が引き続き認められ、噴気音は9月以降やや明瞭な状態が続いています。赤外放射温度計で測定した噴気孔の温度は約90(前回9月:約90、測定距離3m)で変化はありません。

【その他】

その他の火口及び周辺の地熱域にも特段の変化は見られません。

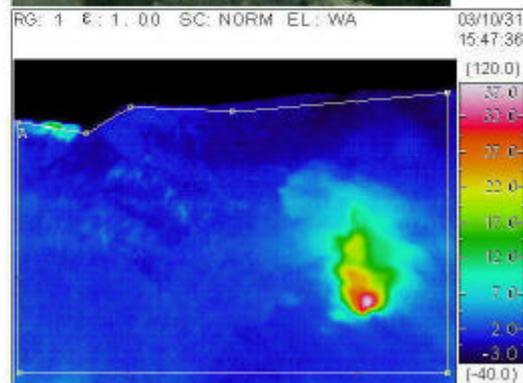
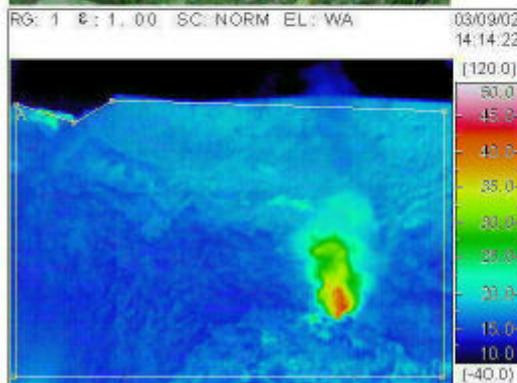
【全磁力観測】

山体内部で熱活動が活発化したことを示すデータは認められませんでした。



北海道駒ヶ岳山頂火口周辺図

* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できますが、はっきり対象が見えない場合や、熱源から離れると実際よりも温度が低く表示されます。



北側火口縁から撮影した昭和4年火口の表面温度分布

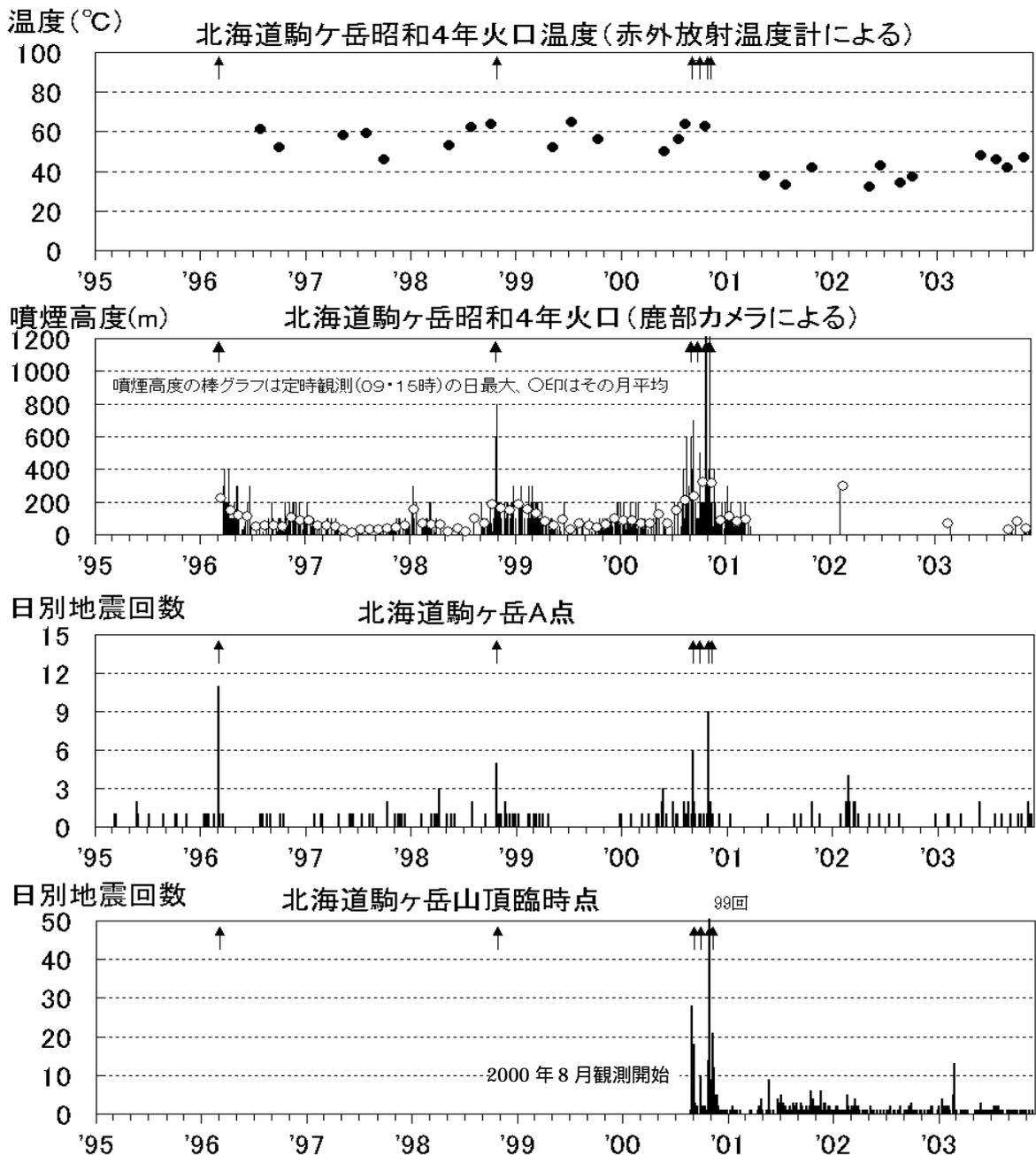
左:2003年9月 右:2003年10月 測定距離:約130m

南側火口壁の噴気(写真右側)に対応した高温域の他は、明瞭な熱異常域は認められません



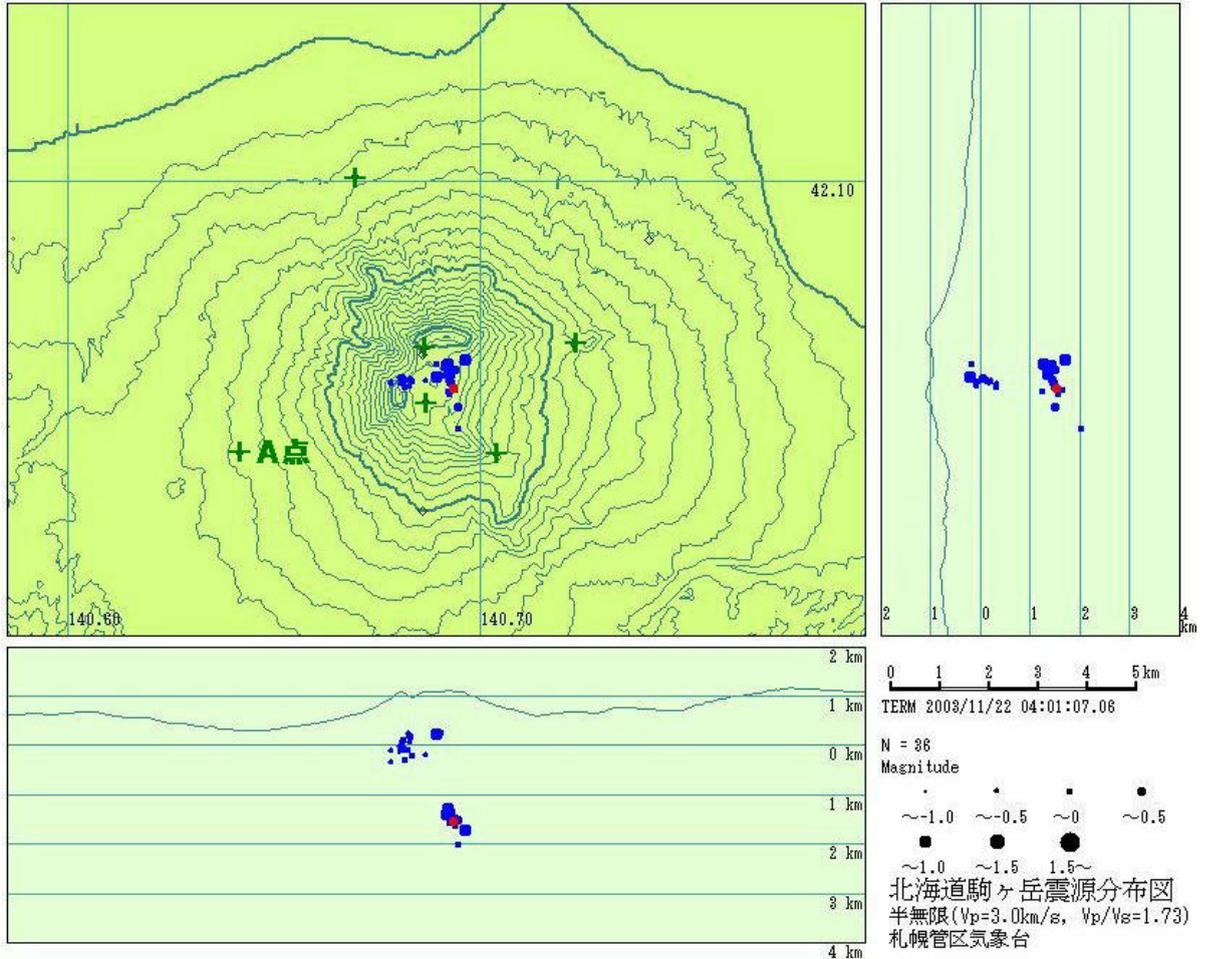
96年南火口列F13噴気孔の様子
(南側から撮影: 10月31日)

噴気には弱い硫化水素臭とやや明瞭な噴気音が引き続き認められます。周辺には鮮明な硫黄昇華物が付着しています。



北海道駒ヶ岳火山活動経過図

(日別、1995年1月1日~2003年11月30日) 印は噴火



北海道駒ヶ岳震源分布図

+印は地震観測点

震源表示 赤：2003年11月1日～11月30日(今期間)

青：2002年11月20日～2003年10月31日(前期間までの約1年間)

過去の震源は大きく分けて山頂火口原直下の海拔付近と海拔下1～2kmの2グループに集中して分布しており、今期間の活動もこれらの領域内で発生しています。この他に北東山麓付近のやや深いところ(5～10km)を震源とする地震が時折発生しますが、十分な精度が得られないためこの図にはプロットしていません。